令和3年6月

「こおりやまの米」通信

編集：郡山市
JA福島さくら郡山地区本部（TEL.921-0533）
NOSAI福島郡山田村支所（TEL.933-3307）
県中農林事務所農業振興普及部（TEL.935-1310）

発行:郡山市農作物生産対策協議会
（郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761）

Vol. 4　中干し・いもち病防除

こおりやまの米通信　検索

＊最新および過去の記事は、郡山市ホームページから見ることができます。ホームページはこちら→

1 いもち病対策

～置き苗の処分は終わりましたか？～

葉いもちに罹病しやすい時期になりました。
置き苗はすみやかに処分してください。

【葉いもち予防】

予防防除は地区全体で取り組むと効果が高まります。箱粒剤を使用していない場合、オリゼメート粒剤やコラトップ粒剤5 などを6月下旬に散布してください。

【 いもち病適期防除にBLASTAM（ブラスタム）活用を】

県では、葉いもちの感染しやすい日を判定するシステムBLASTAM（ブラスタム）を公開しています。感染後約1週間で病斑が発生するので、ブラスタムで感染しやすい日を確認した場合、その一週間後にほ場を観察し、早期発見に活用してください。

福島県　ブラスタム　検索

【穂いもち予防】

移植時に穂いもちに効果のある箱粒剤を使用していない水田では、コラトップ粒剤5（出穂15～10日前）などを使用し、穂いもちを予防してください。ふくひびき等の出穂の早い品種は、散布時期が7月10日前後なので、遅れないように防除しましょう。

2 中干し

開始が遅れるほど効果が低下します。有効茎を確保したら速やかに実施しましょう。

1株あたりの有効茎数は、品種と栽培密度によって異なります。坪50株植の場合は33本、坪70株植の場合は23本が目安です。※詳しくは前号を参照。

熱中症警戒アラート始まりました

環境省が今年度から始めたシステムで、熱中症の危険性が極めて高くなった際にメールにて通知されます。また、同ホームページで各種情報が閲覧できます。

【中干しの効果】

①酸素が土中に入り、根の活力を高め根腐れを抑制します。
②チッソ吸収を制限し、無効分げつを抑制します。
③落水開始を遅くすることができ、登熟の向上が期待できます。
④土壌が乾き固化することにより、田面がコンバイン作業に適した固さになります。
※併せて溝切りを行うことにより効果が向上します。

【中干し終了の目安】

田面に幅5mm程度の亀裂ができれば終了です。地力の低い水田では軽く亀裂ができた時点で終了です。

減収とならないように幼穂形成期までには終了しましょう（ふくひびき等の出穂の早い品種では7月上旬から幼穂形成期となるので注意してください）。

3 水管理

【生育不良時の水管理】

有効茎が確保されるまで中干しは実施せず、浅水管理を継続します。異常還元（ガス湧き）の場合、数日間落水を継続し土壌中に酸素を供給しましょう。

なお、異常還元による生育不良時に、生育促進のために窒素追肥を行うと、回復後に生育が過剰となり倒伏の恐れが高まるので注意してください。

【中干し後の水管理】

中干し後すぐに湛水状態とすると、土中が酸素不足となり根腐れの原因となります。中干し直後は土を湿らす程度の走り水とし、3～5日かけて徐々に間断かんがいへ移行しましょう。

【低温時の水管理】

幼穂形成期以降に低温となった場合、不稔となることがあります。予防のために、幼穂形成期から減数分裂期に低温が予想される場合には、すみやかに深水管理とし、幼穂を保護しましょう。

4 追肥

【カリの追肥】

稲体強化等を目的として、カリを追肥する場合は、出穂30～40日前に実施します。

ケイ酸カリ（出穂40日前） 20kg/10a、または、塩化カリ（出穂35日前）7kg/10aが目安です。

～カリ追肥の効果～

①稲の体を強くする。（倒伏防止等）

②根の働きが良くなる。（下葉の枯れ上がりの防止による登熟向上）

③籾殻を大きくしたり、籾の奇形が少なくなる。

④穂数、籾数、千粒重の増加が期待できる。

※ケイ酸カリでは、ケイ酸による受光体制の改善による登熟向上等も期待できます。

【穂肥】

幼穂形成期の窒素追肥は、籾数の確保のために実施しますが、この時期は稈長が伸び始める時期であり、追肥量が多いと倒伏の原因となります。品種と生育に応じた適切な時期と量に注意が必要です。

下の表の出穂25日前の品種毎の標準的な生育の目安を基準に、旺盛な場合は、時期を遅らせる、量を減らす、追肥を行わない等の対応を検討しましょう。

※基肥一発肥料を使用した場合は原則として追肥は行いません。

～出穂25日前の生育状況で判断しましょう ～

幼穂形成始期(出穂25日前)の生育の目安

品種名	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色 (カラースケール)
コシヒカリ	65～70	630～730	3.0
ひとめぼれ	60～65	700～750	3.5～4.0
あきたこまち	55～60	520～560	3.5～4.0
天のつぶ	65～70	520～560	3.5～4.0
里山のつぶ	65～70	500～600	3.5～4.0
ふくひびき	65～70	580～700	4.0～4.5

幼穂長による出穂までの日数の判定方法は下表のとおりです。出穂期はその年の天候により前後しますので、幼穂長により判断してください。

出穂までの日数の判定方法（コシヒカリ）

幼穂長	出穂前日数	備　考
1mm	25日	幼穂形成始期
2mm	20日	
8～15mm	18日	止葉抽出
40～60mm	14日	
80mm	12日	減数分裂期

品種別施用時期と窒素成分量の目安

品種名	施用時期 （出穂前日数）	窒素成分量 （kg/10a）
コシヒカリ	出穂15日前	1～2
ひとめぼれ	出穂20日前	2
あきたこまち	出穂25～20日前	2
天のつぶ	出穂25日前	2
里山のつぶ	出穂25日前	2
ふくひびき	出穂25日前	2～3

5 紋枯病対策

近年の温暖化や施肥量の増加により紋枯病が拡大傾向にあり、減収となるほど被害の著しい水田も見られます。

前年発生した水田で多く発生するため、昨年被害の大きかった水田では、発生が見られたら速やかに防除を実施するようにしましょう。

モンガリット粒剤（出穂28日～14日前）3～4kg/10a

※ふくひびき等の出穂の早い品種では散布時機を逸し易いので特に注意してください。

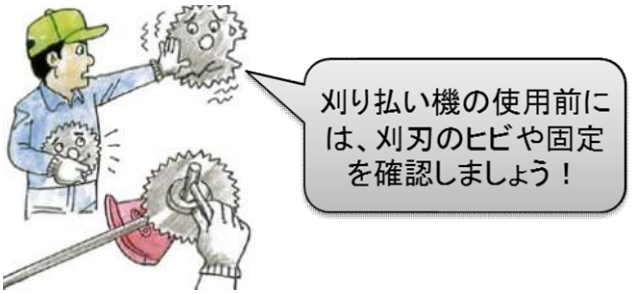
6 斑点米カメムシ類対策

～定期的な草刈りで全量1等をめざしましょう！～

田植え後から出穂前までの2～3回の畦畔雑草の草刈りで大幅に密度が低下します。

なお、出穂期前後の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込む場合があるので、出穂10日前までに終了しましょう。

水田内のヒエやホタルイは斑点米カメムシを誘引します。これらの残草がある場合、後期剤での防除や手取り除草を実施してください。



農薬危害防止運動実施中！

農薬は、使用前に必ずラベルで作物名・使用方法を確認し適正に使用しましょう。

主食用米から飼料用米への転換はお済みですか？

現在、主食用米は在庫過剰が続いており、３年産も米価下落の恐れがあります。

さらなる飼料用米への取り組みをお願いします。